



Sym

企画公募

金沢市民芸術村アート工房

Kanazawa Citizen's Art Center  
金沢市民芸術村

PIT5 ●アート工房

北陸即興



わたしは

未来を

思い出している。

R. Guldenfied

Sym-企画公募2022

## わたしは未来を思い出している

2023.1.15(日) - 29(日)

金沢市民芸術村 PIT5 アート工房

[北陸即興]

上野 賢治

阿原 直美

氷見 房子

宝栄 美希

元井 康平

with ちびガッツ!

アート工房ディレクター

宮崎 竜成

モンデンエミコ

"即興"という言葉は聞き慣れない、

非日常的なものに聞こえるかも知れない。

しかし日常の中で起こった出来事に対してわたしたちがとるリアクションは、

必ずしも誰かから教わったものではない。

例えば生まれたばかりの赤ちゃんが、

お腹が空いたときは泣き声をあげればいい、

ということを誰かに教わってはいない。

これは未来を思い出しているのではないかと仮説を立てた。

形のある物を作る時、人はこれまでの経験や知識を用いて考え

判断するのが普通であり当たり前で、これは全て過去の記憶から生まれている。

しかし"即興"で何かをする時、突然生まれたそれは過去であると同時に、

未来でもあるかもしれない。

わたしたちはここで「未来」を作品にすることに挑戦する。

北陸即興 企画代表  
宝栄美希

〈本企画について〉

Sym-企画工房2022「わたしは未来を思い出している」は、即興パフォーマンスユニット“北陸即興”とゲスト美術作家の“ちびガッツ!”が、アート工房の空間と時間を12日間にわたり実験的に活用し、“即興”という手法で「未来」を作品にすることに挑戦した展示・パフォーマンスです。

〈北陸即興とは〉

北陸に拠点を置くアーティスト、上野賢治、阿原直美、氷見房子、宝栄美希、元井康平らによる即興パフォーマンスユニット。メンバーそれぞれの経験・知識を通し、芸術表現の垣根を越え、音楽・舞踏・声・呼吸・存在、各々の肉体そのものを駆使し、時間・空間を演出する。観客や様々な共演者らと実験・発表・実践を行い、即興の定義・解釈について定期的な研究会・公演にも繋げ、社会と即興の関係性についても追求していく。

〈公開稽古とは?〉

北陸即興メンバーによるダンス・アクト・楽器演奏の即興パフォーマンス稽古です。

〈身体の展示とは?〉

北陸即興メンバー数名とちびガッツ!による身体を用いた観客参加型のクリエーション活動です。

1/15 (日)	1/16 (月)	1/17 (火)	1/18 (水)
無料 10:00 ----- 17:00	無料 10:00 ----- 17:00	無料 10:00 ----- 17:00	無料 10:00 ----- 17:00
【イベント】 公開稽古 13:00~16:00	【イベント】 身体の展示 13:00~16:00	【イベント】 身体の展示 13:00~16:00	【イベント】 身体の展示 10:00~13:00
1/19 (木)	1/20 (金)	1/21 (土)	1/22 (日)
無料 10:00 ----- 17:00	無料 10:00 ----- 17:00	無料 10:00 ----- 17:00	有料 -----
【イベント】 身体の展示 13:00 ~ 16:00	【イベント】 身体の展示 Special (はながつつ) 16:00 ~ 19:00	【イベント】 公開稽古 13:00~18:00	【イベント】 中間発表と座談会 〔第一回〕 11:00 ~ 〔第二回〕 13:00 ~ 〔第三回〕 15:00 ~
1/23 (月)	1/27 (金)	1/28 (土)	1/29 (日)
無料 10:00 ----- 17:00	無料 10:00 ----- 17:00	無料 10:00 ----- 17:00	有料 -----
【イベント】 身体の展示 13:00 ~ 16:00	【イベント】 公開稽古 13:00~16:00	【イベント】 公開稽古 13:00~18:00	最終発表と座談会 〔第一回〕 11:00 ~ 〔第二回〕 14:00 ~



# 素数ゼミ

アート工房での展示に深く関わるのは久しぶりだった。  
 8時間即興は7年前。季節も同じころ。  
 C.山田さんの神戸danceboxでのダンス合宿は13年前。  
 2033年9年、12年前にもエポックな事はあったが...  
 神戸の合宿は、音楽家として参加したのだけれども、79を  
 周知できれば、カチ運動部だった。  
 今回のsymは結果として運動部アゲインだった。  
 絶対的に疲労ピークで終わった。雪もひどいし...  
 ガッツ。さもなくの6人での合宿みたいなアロジエ外だが、  
 色々なかたに正面から向き合う意識があった。  
 いや強さも意識してなんだろう。このブラックホール宇宙の  
 事象の地平面に存在する情報の投影？や投影は8分時？  
 唯一の方法...高次元のコネクション方法？  
 神戸の合宿は1回シリーズの企画だった。その特別な1回の意味  
 があると山田さんが断じている。また、それともいい気がする。  
 毎年でもおかしう、素数年くらいが良さが。  
 ゼミ、田工の交雑問題をこける為の素数で  
 あるが、これも宇宙のルールであろう。  
 このルール、合理性が必然として我々を  
 支配している。  
 ヒューマン上野賢治



上野 賢治 UENO Kenji フルート・作曲家

色々県出身。オランダ・アルネム芸術学校音楽科卒。フルートを高橋真知子に、ジャズフルートをユルグ・カウフマンに、指揮・アンサンブル指導をレックス・フェーロに師事。在学中にHanBenninkのワークショップを受講し即興演奏をスタート。様々な作品で音楽・演出を手掛ける。



即興は生まるること  
 上手に生まれると自信がない私に、  
 この場に立って人に見られる価値など  
 あるのだろうか  
 未来を思い出すのと同じことか  
 過去の経験を基に未来を選択して行くこと  
 を必ず行う。何もしなければ何もできない  
 今、私には何かできるのか？  
 昔、私には何かできたのか？  
 最終発表を終えて  
 私が残った瞬間はあったと知る  
 人々の心に残った瞬間はあったと知る  
 苦しくてもこの場所に来た甲斐があった  
 私はただこの場において  
 そこに漂っている愛のせうはもう  
 受け取ってあげた。だからもういい  
 私のことを一番肯定して下さるは私かもういい  
 感謝の気持ち  
 忘れたい  
 決めたのはいいこと大切さ  
 何事も忘れて何事も思い出して  
 けうもって未来を歩いていこう  
 北陸即興 阿原直美

阿原 直美 AHARA Naomi 女優

富山県出身。地元・富山を中心に活動するフリーの女優。市民劇の出演・助演出、県内劇団/演劇ユニットでの客演、高校演劇部のコーチ、脚本執筆のアドバイザーなど



氷見 房子 HIMI Fusako アーティスト

茨城県出身。金沢大学在学中よりホテルラウンジでの演奏活動を行うほか、自身の身体感覚に基づいた即興演奏による作品制作を行い、金沢大学ピアノの会にて発表。2021年より「リラックス金魚」名義で絵を描き始めた。

「わたしは未来を思い出している。  
この企画のタイトルは一見意味が分からないと思います。  
また私は即興パフォーマンス中にお客様に「正解の無い質問」  
「答えは自分の中にある質問」が書かれた紙を配りました。  
加えて毎日ポストで「時間の概念について聞いた質問」。

私は昔から人に「なぜ？」と聞くのが「癖」で、  
学生の頃には友人に面白がられていました。  
その面白い「癖」が主だったのは中1で宇宙に出会ったから、  
宇宙の存在に對峙した自分の中に「答えのない問い」が生まれた。  
実際にはその問いは私には回答ではあらずに答えのない問いのままに。  
程なくして現代アートに出会い、即興に出会い、  
今の自由について知った時に「答えがなくても問いがはいていいんだ」と  
思えるようになりました。

どう見るか（見いのか）  
どう考えるか（何も考えないのか）  
どう感じるか（何も感じないのか） etc.



全ての概念の自由がその中にある  
この中に集ってらいたくて  
よく分からない質問も沢山投げかけました。  
何が起るかみんな知らない即興も軸にしたこの企画も実行できていい  
自由な時間と空間を沢山のひとと共有できました。  
そこに居た全てのひとに影響されて  
私たちの答えがそこに現れました  
勿論それが正解か間違いかは  
誰にも分からないのですが、

「答えにたどり着かない問い」  
について考え続けることはある意味とても人間らしいと思う。

宝栄美希



宝栄 美希 HOEI Mikiko ダンサー／振付家

石川県出身。2歳よりダンスを習い、日本女子体育大学卒業、舞踊学修了。(英)ラバンセンター留学。国内外の振付家コンペティションにて数々の受賞を納め、また国内外の様々なダンスフェスティバルに招聘される。2015年より石川県の活動を開始。北陸ダンスフェスティバルのディレクションやアウトリーチ、CM振付等行う。能美市観光大使。

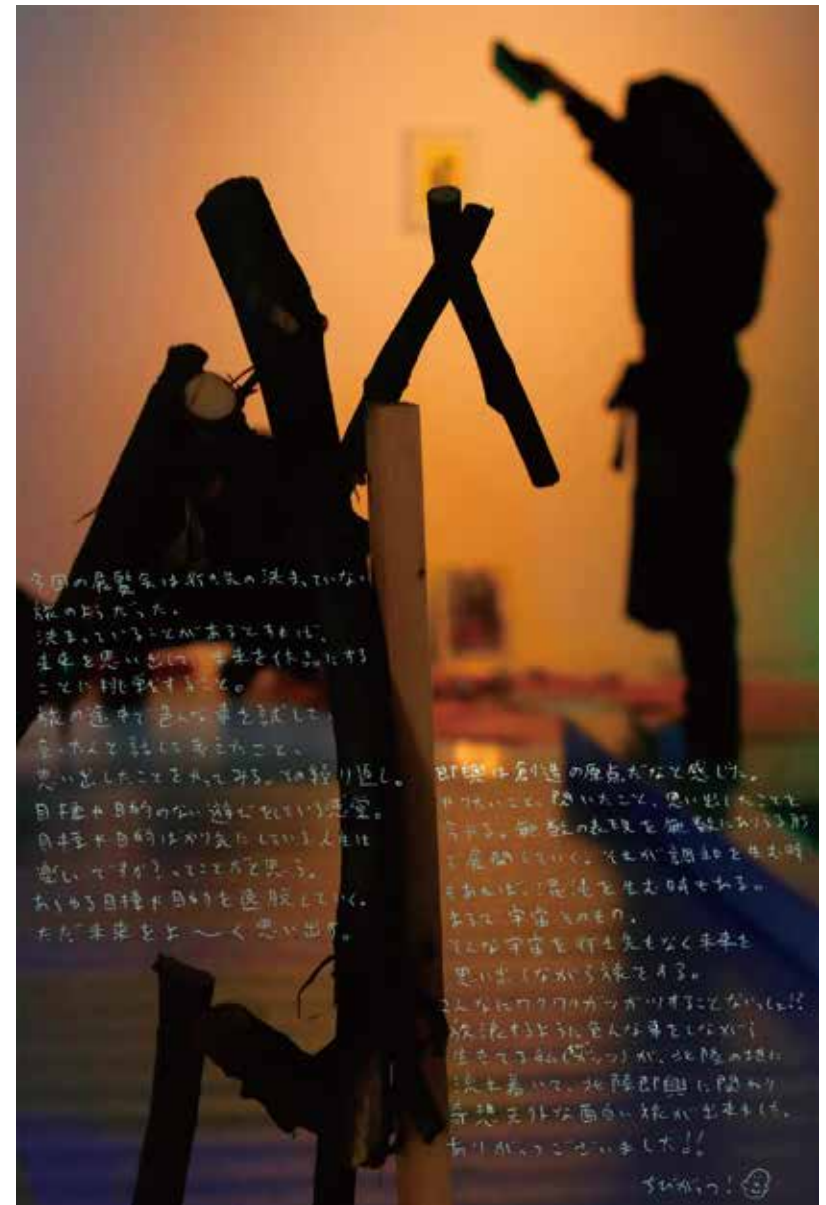


周りの人が当たった瞬間に行っていることと  
ギモンに思わうことを疑問に思わなければ  
この日はみんなが対等に対峙できる場所  
大人も子どもも宇宙人  
みなさんの貴重な時間とありがところありがとうございました。



元井 康平 MOTOI Kohei ダンサー/役者/タレント/企画コーディネーター

富山県出身。舞台・MC・自主映画・現代ダンス作品に出演、岡崎市の武将隊として国内外で舞台上立つ。2017年、故郷富山に拠点を移し地域おこし協力隊の活動に従事。現在、ほとり座を拠点に「クリエイティブスクール」として舞台芸術の可能性を探る様々な公演・ワークショップを企画実行中。モデルエージェンシー アドバンス社 所属。



ちびガッツ! CHIBIGUTS! 現代パフォーマンス、ダンサー、美術作家

大阪府出身。2005年よりストリートダンスを始め、数々の大会に出場(B-BOY PARK2009 solo battle準優勝)。アートプロジェクト「気流部」。太陽の人。MuDA、山/完全版などの経験を経て現在はソロでダンサーや美術作家として活動中。全世界を「アートとガッツで大爆笑!」させることが目標。

Sym展示終了後、アート工房ディレクタールームにて

**元井:** 上野さんの今回は今回の[即興]について、発見は何かあったんですか？

**上野:** 発見というのはない、まさに思い出しただけ。最後の座談会の風景を見たことがあると思った。こじつけではあるけれども。

**宝栄:** 見たことはなかったけれども、そうなると必然ですよ。

**上野:** そう、必然だと思う。(一部のお客さんの反応やアンケートにある「何度でも何時間でも見ていたい」というコメントに対して。)

**宝栄:** 中毒性があるんですよきっと。

**上野:** 中毒性はありますね、確実に。

**氷見:** 今日初めて即興を見たという知り合いが、あと24時間見てみたいと言っていました。

**阿原:** (お客さんが) なぜか分からないけれど居心地がいいって言っていて。

**元井:** そう言うお客さん多かったよね。

**上野:** 「居心地がいい」というのはアート工場の使い方としてとても画期的で、どんな立派な作品展示があっても展示というのは居心地が良くないんですよ。

**宝栄:** 確かに美術館の展示ってそんなに長居したくないですね。どんな作品がそこにあるか知らされていて、作品の説明がそこに書かれていて、確認できたと思ったら私は外に出ちゃうな。

**上野:** なんで有名な美術家の展示ってあんなに居心地が悪いのかな。

**ガッツ:** 欲かな？

**氷見:** うん、制度欲。

**上野:** えっとそれは、そこに行く事によりいわゆる権威に染まるということ？上野美術館とか有名な美術館でフェルメール展が開催されたらすごく沢山の人がそこに行くじゃん。でもそれってパンダじゃん。

**ガッツ:** あれはパンダですね。

**阿原:** 自分は分かる・分からないというところが大きいとっていて、その作品のキャプションを読んだ時にそれを自分が理解できる時とできない時があって、できない自分は何かダメなのかな、何も感じられないのはいけないのかなって思う時があって。でも即興はわかってもわからなくても正解がないみたいなの...

**宝栄:** そう、どこかに書いたかもしれないけど、即興だから見る人の受け取り方は自由だから。現代アートも全て本当はそうなんだけど...

**元井:** 「身体の展示」ってことをやったんだけど、中間・成果発表のパフォーマンスも含めて3Dで展示を見られる、また見る場所・見るものを自分で選べるのは結果的によい効果があったよね。またそれはこの会場に来ないと体感できない事で、映像でも分からない。デジタル化が進む中で、絶対に会場に行かないと分からない、というものに今回はなったと思う。

**氷見:** お客さんが見る視点を選ぶという一人一人の経験の自由度も高いですよ。

**上野:** 座談会でもコメントしてくれた人がいたけど、「見ている間に自分の見ているものの視点が変わっていった」という感覚はとても興味深いよね。

**宝栄:** 「自分はここにいるはずなのに頭の中では別の場所にいた」という意見も良かったですよ。

**宝栄:** 即興だからストーリーや台本がなくとも誰もここで何が起こるか分からないけれど、最初訳が分からなかったお客さんが最後には居心地が良くなるのは、それでいいんだ(この展示の見方は自由なんだ)って納得できるようになるんだよね、60分そこにいと(即興パフォーマンスを見ていると)。

**上野:** この位の長さ(60分の即興を)しないと、カテゴライズやオーソライズされた考え方の呪縛から抜け出せないんだよね。

**氷見:** 20~30分だと普段の見方から抜け出せなくて中間発表は極端なお客さんの意見が出やすかったのかなと思う。

**宝栄:** ガッツさんの60分のSPパフォーマンスでのお客さんの反応にも反映されてるけど(※会期中に実施した花のガッツさんが60分笑い続けながら北陸即興と踊るもの)、お客さんが普段の感覚から脱するには60分という長さが丁度いいのかも。

**上野:** これは収穫なんだけど、60分(お客さんの思考が日常から非日常に)飛びやすいみたい。もし24時間あるとお客さんはどんどん入れ替わっていきだろうね。

**宝栄:** 24時間あるとアクターの隣に座ったりして展示の「中」に踏み込んでくるお客さんも、もっと出てくるかもしれないですね。

**元井:** ちなみに企画者の宝栄さんへの質問なんだけど、前回の北陸即興の自主公演と趣旨が全然違ったのは何で？(前回と色々違って最初は自分も戸惑っていたんだけど)

**宝栄:** 前は北陸即興としてパッケージングして打ち出すのが目的だった。今回はこういう場をもらって挑戦がしたかった。結果が予想できることだけやるのは意味がないのかなと思って。

**上野:** そうそう。

**ガッツ:** ...。(顔をしながらバナナを食べる)

**スタッフ:** そろそろディレクタールームの鍵を閉めなくてはならないのでご移動お願いします~!

**宝栄:** すみません今出ます!一旦締めましょ~





## 中間発表と座談会

1月22日(日)11時/13時/15時

普段自分が未来のために今を生きているか気付いた。みている人も演者になっているような気がした。

30代

意識と無意識について深く考えさせられました。

50代

モーニングに食べたコーンブレッドとサラダが逆流してきそうな感じ。消化しきれないという言葉はよくできていますね。「バナナ」を逆再生すると「ナナバ」ではなく「ananab」と聞こえるようです。音素のくみあわせでコトバができて、それがつらなって文章ができる。速度を下げると音をしゃべってるんだと実感する。逆再生をきいても、そう感じる。「時間の概念をなくす」←意味のある速度をむりやり加速/減速させる←加速はなさそう?

20代

普段接する機会のない芸術のジャンルなので、とても新鮮でした。

20代

新しい体験ができて楽しかったです。 20代

一期一会の出会いの面白さを感じました。

50代

五感という所では、可能であれば香りを使ってもいいと感じた。

40代

想定外の驚きがあるわけではなく、特に時間の感覚を揺さぶられることもなく、淡々とした時間をすごしてしまいました。まだ制作途中ということなので、今後に期待します。

40代

アート工房の高低差でおもしろいパフォーマンスだったと思います。黒子さんは、白子さんの方が良くないですか?

50代





## 最終発表と座談会

1月29日(日)11時/14時

頭が空っぽになって、日々に追われていることから一旦離れてリラックスできるような感じがありました。でも若い男性の方が時々怖かったから、リラックスできなかったかもしれない(笑)

20代

ピンクシートが似合う女性 素敵でした。 40代

めったに見ることの出来ないパフォーマンスだったと思います。横断的な試みが非常に興味深かったです。

20代

未来はどこまで続きますかの回答: 終わりはない。人を介して続いていく。

30代

即興を見るのが初めてで、次々と様々な表現が繰り広げられていく様子にただただ圧倒されました。コロナ禍でもこういったエネルギーの塊のようなパフォーマンスを観ることにありがたさを感じます。

20代

黒子が最早、黒子でないパフォーマンスを魅せていたり(あの方がちびガッツさんだったのかな?) 観客の小さな女の子が、言ってしまうと究極の即興要素で面白かったですね。

40代

言葉を話せる(す)人と話さない人がいて興味深かった。それぞれの動きをベース、キーボードなど楽器におきかえてみながらみていました。

30代

会場が広いせいなのか、演者の声がよくきこえなかったのが残念でした。座談会も含め、興味深く拝見しました。

40代

即興は初めてでしたが、空間すべてが舞台になってどんどんおもしろくなって楽しかったです。

50代

初めてみました。8時間くらいみたいです。工場見学をしているようなワクワク感や安心感がありました。

20代

見る前: 自分の過去に「あったらいいな」と思うものを未来から思い出そうとしているのかなと思いました。

見た後: どこから思い出しているだろうと考えさせられました。

20代

マントラ、祈りによる  
霊的なものの出現と  
固着、ないものをいま  
ここに出現させて  
とどめておく行い。  
木の貼りつけ。



20代

今日は楽しかったです。自分がえらんですわった場所から見たり、聞いたり、自由に演者さんの動きに集中している時もあるれば、他の事(私事)を考えていたり、心地よい空間でした。自分だったらここでこうする、こうしたい、できる?できない。楽しんで考えるいい時間をありがとうございました。

40代

舞台を見に行くと、見ている自分もなぜか緊張してしまうのですが、このような客席は自分にあっているなと思いました。リラックスしてみました。

40代

- Q
- 1.あなたは[過去・現在・未来]のどこにいますか？
  - 2.未来とあなたの距離はどれくらいですか？
  - 3.あなたにとって時間とは何ですか？
  - 4.始まりと終わりはどこにあると思いますか？
  - 5.即興についてどう思いますか？

- 1.過去
- 2.霧 距離感がつかめない
- 3.経過するもの
- 4.ない
- 5.日常の即興

- 1.過去
- 2.遠い
- 3.意識したときに現れるもの
- 4.各人が決めた場所、時
- 5.ジャンルレスな表現が可能になるもの

- 1.過去
- 2.近くて遠い
- 3.おながいがたいときにはゆっくり感じるもの
- 4.同じ理解にある
- 5.即席ラーメン？のアレンジレシピ

- 1.その時の気分ですが、今は過去
- 2.100km
- 3.あつという間にすぎる物
- 4.自分の中
- 5.楽しい、色々な自分が出てくる。

- 1.過去
- 2.1日
- 3.私を束縛するもの
- 4.宇宙
- 5.自分を表現するすがあればやってみたい

- 1.現在
- 2.30年
- 3.ただ過ぎさってゆく
- 4.終わりの始まりは始まり
- 5.わからない

- 1.現在
- 2.50km
- 3.自分を示す時
- 4.始まり：光の中、終わり；影の中
- 5.今の自分の本能を表現することだと思うが、理性があるので表現するのが難しい。

- 1.現在
- 2.かなり近いかもしれない
- 3.時計がない世界に行ってみたい
- 4.種からはじまり土で終わる
- 5.コミュニケーション能力が必要な感じがします

- 1.現在
- 2.手を伸ばした位
- 3.砂時計
- 4.ない
- 5.今している事が思い続けてきたことか、本当に今している事なのか

- 1.現在
- 2.遠いようで近い
- 3.すぐになくなるもの、溶けるもの
- 4.わかりません
- 5.自分の世界を広げてくれるのは、誰でもなく他者の存在なので、可能性しかないと思います。

- 1.現在
- 2.となり
- 3.リズム
- 4.ない
- 5.イメージ

- 1.現在
- 2.どの地点の未来なのか？による
- 3.今の連続
- 4.どこかにはありそうだけど、分らない
- 5.何が起るんだろう？

- 1.現在
- 2.星のまたたき程度
- 3.有能なもの
- 4.決めた場所
- 5.観るのは好き！

- 1.現在
- 2.目の前
- 3.老いと死までのタイムリミット
- 4.受精～死～記憶
- 5.現在との対応

- 1.現在
- 2.近い様な気がするけど実際には遠い
- 3.大事かもしれないがきゅうくつな感じもする
- 4.生と死
- 5.即、出来るというのはすばらしい事だと思う

- 1.現在と過去の間
- 2.星と同じような距離
- 3.社会生活に必要な場所
- 4.物心がついた時に始まり、自我を失って終わる
- 5.自らが産まれてから取り入れてきた事を洗練させ、場の環境や人に合わせて反応し発露させる事

- 1.すぐそこ
- 2.すぐそこ
- 3.1秒1秒の積み重ね
- 4.始まり：この世に生命が宿ったとき・終わり：満足した、やりきったとき
- 5.その時の感情を表現するアドリブのようなもの

- 1.全部
- 2.距離はない
- 3.うつろい
- 4.永遠に廻るので始まりも終わりもない
- 5.即興である、という「わく」をこえる事ができない。よって、高度な技術が必要となり、いずれの時代も試みられたがいずれも、当事者の芸術的思考、思想、そして即興の技術が求められる。

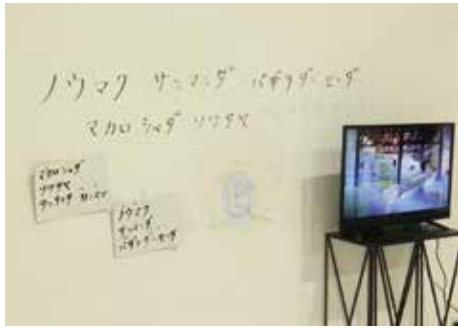
- 1.全部
- 2.はなれてても何百キロくらいのもんです。たいていそんなに長くはない。最悪の場合。
- 3.道のり÷はやすでわかるやん！て気づいたことがあったけど、その心をわすれました。
- 4.なんの、なのかによると思います。
- 5.はずかしさは無視できない

- 1.全部
- 2.背中くらい
- 3.便宜
- 4.その思ったとき
- 5.演者のためのものそれをおすそわけしてもらう

- 1.未来
- 2.0m
- 3.一瞬
- 4.ない
- 5.自由・あそび（今いがいと出来る人が少ない？）

- 1.未来
- 2.ゼロ
- 3.期待と渴き
- 4.腸と手前と脳
- 5.すべての現象が即興である

- 1.未来
- 2.常に変動
- 3.最も消化に難しい要素
- 4.今
- 5.人生そのもの



H



N



N



H



H



N

『即興って、何なん?』

Sym-企画公募2022には、6つの企画提案が寄せられていた。会場であるアート工房はいわゆる「美術」と呼ばれるジャンルの表現の場だから、その中であって今回のようなパフォーマンスを中心とする内容は少々異質で、有り体に言えばお門違いな企画提案だった。

その提案にはコンセプトとして『私たちはここで「未来」を作品にすることに挑戦する』と書かれていて(なんのこっちゃ!?)、内容としてダンス・音楽・美術・演劇のインスタレーションとパフォーマンスの展示、そして即興、さらにはディスカッションという言葉が並び、会期中にこれらに変化してゆくことが示唆されていた。しかし、その文言だけでは実際・具体的に＝本当に何が起るのかは解らない。他の5つの提案がどれも優れた内容であっただけに審査は数日に及び、決定には本当に時間がかかった。最終的な採択には、即興のような／賭けのような／ある種の決心が必要だった。(大げさだが)それが「未来」を変えてしまうわけだから。

それにしても何故、今、即興なのか。そうした表現を80～90年代に散々見てきた身としては、「即興」の言葉自体に古臭さも感じる。しかし会期を終えた今となっては、応募書類が「どこにもなかった出来事を発現させようとの計画書(…ただし安全に。)」だったことがわかる。

アート工房は、「今、その瞬間の選択が連続して流れ続ける空間」となった。会場には会期中の「身体の展示」の記録映像もインスタレーションの一部として重ね合わされている。しかし延々と続くそれらのシーンを確認しなくとも、1日たりとも同じ日はなかったという「目撃証言」に信憑性があることは、実際のパフォーマンスの様子から理解できた。私自身は中間と最終の発表に立ち会っただけなのだが、それらはまるで別物だったし、思えば自分自身の場に関わる態度も変わっていた。

実際に起こることは様々だ。例えば最終発表のそれを描写してみよう…としても、にわかには何が起こっていたのか説明できない。仕方ないので会場で走り書いたメモから抜粋してみる。

踊る・歩く・走る・飛ぶ・転ぶ・寝る…そして絵を描く／早く・遅く・静止・異なる時間の流れ／様々な楽器音・そのループ・突如ピアノの大音量・呼応した別な音・以前の音は止む・一方で、新たな音が始まる・サンプリングされた会場音のエコー／唐突な呪文吟誦・朗読・独り言・言葉ならぬ発音の応酬・即興に関するマイクでの解説／パフォーマー同士の干渉・呼応・拒絶／変化&移動する照明・黒子の暗躍・ドリルで案山子(?)を解体…などなど。

気づけば赤ちゃんを抱っこしてあやす父親がパフォーマンスに参加し、歩く観客やカメラマンもその一員となり、小さな子供がトイピアノを弾き、あるいはパフォーマーの描く絵をまじまじと覗き込んで観察する…さらにその子を撮影する父親。工房の外を歩く人が(部屋ではなく、自分の目に)飛び入りし参加してくる。かれこれ一時間が経とうとする頃、部屋は暗転し…そして明るくなり、空気は元に戻った。

恐らくそれまでの公演中のタイトな緊張感の中にそのまま居続けたかった参加者も多かっただろう。パフォーマンスは、見る側にとっても空間や瞬間に対してセンシティブになる…ならざるを得ない…特異な「エクササイズ」の時間だった。

さて再び…即興とは何なのだろう？

観客も含めた「他者」がそこに介在し、ゆえに考えてもいなかった出来事が起こり、夢の唐突さにも似た物語にならぬ因果が連続と続く空間にリアルに立ち会う…「今」何かが違ったらその先の「今」が変わってしまうような《今》と生々しく対面しつつそこに居続ける…そのような、未来へ向け、決められた現在(いま)から遁走するが如き悪足掻きに、何かしらの呪縛から逃れようとする人間の態度、そして私たち自身の姿をみる気がした。

黒澤 伸 (金沢市民芸術村総合ディレクター)

遠くのを近づけて、持っているものを遠くへ返す

第二回となるSym-企画公募は「北陸即興」というパフォーマンスグループによる企画、「私は未来を思い出している」が開催された。

本企画は即興を通して、「未来」の時間について音楽、舞踏、言葉、絵画など、直接身体を使うことで思惟するというものであり、それはパフォーマー同士だけに留まらず、会場を訪れた観客も即興を通じて未来の時間に考えを巡らせ、またそれを共有するものでもあった。

「即興」それ自体を俯瞰的に定義することは難しい。なぜなら即興とは実践のうちで検討されるものだからだ。北陸即興はこうしたSym-企画公募によっておよそ二週間「即興」という大きな問題に「未来」という視座から取り組み続けた。では一体そこでは何が行われていたのか。私自身も、全てを追い切ることはできないが、それを経験した具体的事柄を通してここに記してみることにする。

まずは空間のこと。本企画は毎日北陸即興のメンバーが常在し「身体の展示」と称したパフォーマンスが行われ続けた。身体は展示ではアート工房の空間に様々な拠点を作り、パフォーマーが展示台の上のみで何かを行い続ける、あるいはアート工房の空間の局所的なエリアのみ(つまりパフォーマー同士の距離が密接なものとして)で、道具などを媒介としながら互いの呼吸、音、反応を返し合うといったように、演じるものとしての身体及び主体性が、アート工房の空間そのものに向かい、そしてパフォーマーたちの関係もまた空間そのものに条件づけられるようにその精度を問うていくようなものであった。また、それらの行為は局所的であるがゆえに、即興を演じながらも、同時に演じることの手前にあるアイデアを問うていくようでもあった。

次に時間のこと。身体は展示や公開稽古など、毎日の実践は映像や写真で記録され、会場内に蓄積されることで、演じる者と、それを観る者とは、過去の行為を即興という行為を通して未来のかたちへと置き直そうとする。それは過去が先にある未来が後にあるのか、それとも未来をかたち作るために過去があるのか、こうした方向が即興を行うという現在を媒介としながら相互に入り交じってゆく。

最後に行為のこと。元井は即興を演じるという舞台の内側としての存在、そしてそれを超越的な視点から俯瞰するような存在、こうした両義性を一つの身体に同居させ、ある種のメタとベタをひっきりなしに行き来する。阿原は空間にある物(本やアルバムや文字の書かれた紙など)の記憶と自身の記憶を複雑に織り交ぜ、それを時に観客を巻き込む形で展開する。上野は主に音で身体と空間の全方位を流動化させ、氷見は空間、音、他の演じるものたち、そのすべての機微に反応しながら身体をチューニングさせる。そして宝栄はダイナミックな動きこそ少ないものの、常に観るものの視点から逃れた空間の周縁で、他の演じる者達、観る者の全体を捉え、時に中心の演者を周縁に引き連れ、時に自身の運動と共に周縁のものを中心に投げかける。ちびガッツは即興における機能を黒子という立場から構造化しつつも、どこか遊び心のある参入で舞台の柔らかさと硬さの幅を押し広げる。

これはあくまで私が経験したことの分析を反映したものであり、即興の空間には組み尽くせないほどの要素があった。そんな中でも、やはり即興を行う上で、アイデアの反復や形式化は切り離せないものとしてそこに横たわっていたが、それはただ即興の限界であるというわけではないように思われた。北陸即興による実践からは、今・ここという現在でまだ見ぬものを近づけようとし、でもそれが近づいて手に入った途端、していることの繰り返しになってしまう、しかしそれでも演じる者、空間、そして観る者との関係の中でなんとかそれを違うかたちで、まだ確定していない未来へと返そうとするような、結果ではなくそこへ向かうとすることを諦めない実践そのものこそが未来であることを体験的に教えてくれるような気がした。

宮崎竜成 (金沢市民芸術村アート工房ディレクター)



## Sym-企画公募2022

わたしは未来を思い出している

アーティスト・パフォーマー：

[北陸即興]

上野 賢治

阿原 直美

水見 房子

宝栄 美希

元井 康平

with ちびガッツ!

会期：2023年1月15日(日) - 1月29日(日)

(※1月24日(火) - 26(木)休館日)

時間：10時～17時 ※詳細はP3スケジュールを参照

料金：入場無料／中間発表(1,000円)と最終発表(2,000円)のみ有料

会場：金沢市民芸術村PIT5アート工房(石川県金沢市大和町1-1)

主催：金沢市民芸術村アクションプラン実行委員会

共催：金沢市、公益財団法人金沢芸術創造財団

企画・担当：金沢市民芸術村アート工房ディレクター 宮崎竜成、モンデンエミコ

協力：アートアンツ

発行日：2023年3月31日

カタログデザイン：村田裕章

写真撮影：野口良一 P4-5/P14/P16/背表紙

フォトグラファーNOD 野田啓 P8/P9/P11/P20N/P21N

濱井恵海 P20H/P21H

発行：金沢市民芸術村アート工房

本書の全文または一部の無断での転載、複製はご遠慮ください。  
乱丁落丁、その他ご不明な点がございましたらご連絡ください。